

日商簿記検定 3 級 第 1 回 模擬問題—解答—

第 1 問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	減価償却費 未収入金 固定資産売却損	62,500 500,000 75,000	備品 備品	62,500 575,000
2	仕入	610,000	買掛金 現金	590,000 20,000
3	普通預金 手形売却損	1,984,000 16,000	受取手形	2,000,000
4	現金	200,000	商品券	200,000
5	給料	550,000	預り金 当座預金 当座借越	24,000 265,000 261,000

[採点基準：各 4 点]

第 2 問 (8点)

帳簿	現金出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)	仕入帳	売上帳	受取手形 記入帳	支払手形 記入帳
日付									
5	8		○		○	○			○
	10				○	○			
	16	○		○			○		
	31		○	○					

[採点基準：各日付につき 2 点]

第 3 問 (30点)

残高試算表		(単位：円)	
現金	(2,260,000)	支払手形	(1,800,000)
当座預金	(963,000)	買掛金	(1,550,000)
受取手形	(1,800,000)	未払金	(2,000,000)
売掛金	(1,360,000)	預り金	(30,000)
有価証券	(342,500)	前受金	(270,000)
繰越商品	(150,000)	貸倒引当金	(45,000)
前払金	(60,000)	建物減価償却累計額	(4,800,000)
(未収入金)	(325,000)	備品減価償却累計額	(1,200,000)
貸付金	(600,000)	資本金	(9,741,000)
建物	(10,000,000)	売上	(17,012,000)
備品	(2,800,000)	受取配当金	(60,000)
車両	(600,000)	受取利息	(1,000)
仕入	(11,982,000)		
給料	(3,295,000)		
営業費	(1,954,000)		
有価証券売却(損)	(17,500)		
	(38,509,000)		(38,509,000)

[採点基準：□につき 3 点]

第 4 問 (10点)

仕訳日計表			(単位：円)	
平成 29 年 5 月 1 日				
借方	勘定科目	貸方		
(710,000)	現金	(788,000)		
(150,000)	当座預金	(60,000)		
	売掛金	(500,000)		
(1,000,000)	備品			
(200,000)	支払手形			
	未払金	(1,000,000)		
	借入金	(200,000)		
	売上	(100,000)		
(140,000)	仕入			
(380,000)	給料			
(68,000)	営業費			
(2,648,000)		(2,648,000)		

[採点基準：□につき 2 点]

第 5 問 (32点)

貸借対照表

平成28年12月31日現在

(単位：円)

現金	(249,200)	買掛金	(480,000)
受取手形	(800,000)	借入金	(1,200,000)
売掛金	(1,200,000)	未払費用	(152,000)
(貸倒引当金)	(60,000)	前受収益	(8,400)
商品	(96,000)	資本金	(2,575,000)
備品	(1,600,000)	当期純(利益)	(769,800)
減価償却累計額	(700,000)		
土地	(2,000,000)		
	(5,185,200)		(5,185,200)

損益計算書

自：平成28年1月1日 至：平成28年12月31日

(単位：円)

売上原価	(4,544,000)	売上高	8,600,000
給料	(2,525,000)	受取地代	(100,800)
貸倒引当金繰入	(44,000)		
減価償却費	(200,000)		
支払家賃	(240,000)		
水道光熱費	(165,000)		
通信費	(120,000)		
(旅費交通費)	(54,000)		
雑(損)	(3,000)		
支払利息	(36,000)		
当期純(利益)	(769,800)		(769,800)
	(8,700,800)		(8,700,800)

[採点基準：□につき4点]

日商簿記検定 3 級 第 1 回 模擬問題—解説—

第 1 問

1. 固定資産の売却は、売却金額と売却時の簿価（取得原価－減価償却累計額）との差額を売却損益として計上する。

(借) 減価償却費	62,500	(貸) 備品	62,500
(借) 未収入金	500,000	(貸) 備品	575,000
(〃) 固定資産売却損	75,000		

※ 減価償却費： $¥1,200,000 \div 8年 \times 5か月$ （平成29年1月～5月） $\div 12か月 = ¥62,500$

※ 備品： $¥1,200,000 - \{¥1,200,000 \div 8年 \times 45か月$ （平成25年4月～平成28年12月） $\div 12か月 + ¥62,500$ （減価償却費） $\} = ¥575,000$

※ 固定資産売却損： $¥575,000 - ¥500,000$ （売却金額） $= ¥75,000$

2. 商品の購入に関する付随費用は、商品の取得原価に算入する。しかし、仕入先が負担すべき費用を立替え払いしている場合には、将来仕入先に対して支払う金額が少なくなるため、買掛金勘定から減額させる。

(借) 仕入	610,000	(貸) 買掛金	590,000
(〃) 現金		金	20,000

※ 仕入： $¥600,000 + ¥20,000 \times 1/2$ （折半） $= ¥610,000$

※ 買掛金： $¥600,000 - ¥10,000$ （先方負担の諸掛） $= ¥590,000$

3. 約束手形の割引は、手形の満期日前に銀行等で換金することをいい、手形の割引時から満期日までの期間に相当する利息を割引者に支払わなければならない。この差し引かれた利息相当額を手形売却損勘定で処理する。

(借) 普通預金	1,984,000	(貸) 受取手形	2,000,000
(〃) 手形売却損	16,000		

※ 手形売却損： $¥2,000,000 \times 4\% \times 73日 / 365日 = ¥16,000$

4. 商品券を発行した場合には、将来商品を引き渡す義務が生じるため、商品券勘定（負債）を計上する。そのため、商品を引き渡したときに当該商品券勘定が消滅する。

5. 給料の支払い者は給料の支払い時に所得税等の源泉徴収を行い、従業員に代わって所得税等を所定の納付地に納めなければならない。その場合に、当該所得税等の源泉徴収税額は、従業員から預かっているだけにすぎないため、預り金勘定で処理する。

(借) 給料	550,000	(貸) 預り金	24,000
(〃) 当座預金		金	265,000
(〃) 当座借越			261,000

※ 当座借越： $¥526,000$ （給料の支払額） $- ¥265,000$ （当座預金の残高） $= ¥261,000$

第 2 問

- (1) 補助簿の説明

- 現金出納帳：現金残高の把握。仕訳にて現金勘定が生じた際に記入する。
- 当座預金出納帳：当座預金残高の把握。仕訳にて当座預金勘定が生じた際に記入する。
- 商品有高帳：商品帳簿有高及び売上原価の把握。仕訳にて仕入及び売上勘定が生じた際に記入する。ただし、売上値引きについては、売価の修正であり、商品原価には影響が無いいため、記入しない。

4. 売掛金元帳 : 商店毎の売掛金の把握。仕訳にて売掛金勘定が生じた際に記入する。
5. 買掛金元帳 : 商店毎の買掛金の把握。仕訳にて買掛金勘定が生じた際に記入する。
6. 仕入帳 : 商品購入取引の詳細を把握。仕訳にて仕入勘定が生じた際に記入する。
7. 売上帳 : 商品販売取引の詳細を把握。仕訳にて売上勘定が生じた際に記入する。
8. 受取手形記入帳 : 受取手形の決済日等・詳細の把握。仕訳にて受取手形勘定が生じた際に記入する。
9. 支払手形記入帳 : 支払手形の決済日等・詳細の把握。仕訳にて支払手形勘定が生じた際に記入する。

(2) 各取引の仕訳と補助簿の選択は次のとおりである。

8日	(借) 仕 入 3、6	(貸) 当 座 預 金	2
		(〃) 支 払 手 形	5
		(〃) 買 掛 金	9
10日	(借) 買 掛 金 5	(貸) 仕 入 3、6	
16日	(借) 現 金 1	(貸) 売 上 3、7	
	(〃) 売 掛 金 4		
31日	(借) 当 座 預 金 2	(貸) 売 掛 金 4	

第 3 問

本問は 4 月末日の残高に 5 月中の取引を加減して 5 月末日の残高試算表を作成する。以下、5 月中の取引を仕訳にて示す。

(1) 当座預金に関する取引

(借) 預 り 金 32,000	(貸) 当 座 預 金 32,000
(借) 買 掛 金 500,000	(貸) 当 座 預 金 500,000
(借) 前 払 金 150,000	(貸) 当 座 預 金 150,000
(借) 給 料 610,000	(貸) 当 座 預 金 580,000
	(〃) 預 り 金 30,000
(借) 当 座 預 金 500,000	(貸) 売 掛 金 500,000
(借) 当 座 預 金 400,000	(貸) 貸 付 金 400,000
(借) 当 座 預 金 100,000	(貸) 前 受 金 100,000
(借) 支 払 手 形 600,000	(貸) 当 座 預 金 600,000
(借) 営 業 費 425,000	(貸) 当 座 預 金 425,000

(2) 商品の購入に関する取引

(借) 仕 入 850,000	(貸) 買 掛 金 850,000
(借) 仕 入 400,000	(貸) 支 払 手 形 400,000
(借) 仕 入 500,000	(貸) 受 取 手 形 500,000
(借) 仕 入 200,000	(貸) 当 座 預 金 200,000
(借) 仕 入 180,000	(貸) 前 払 金 180,000

(3) 商品の販売に関する取引

(借) 売 掛 金 1,000,000	(貸) 売 上 1,000,000
(借) 受 取 手 形 500,000	(貸) 売 上 500,000

(借) 現 金 400,000	(貸) 売 上 400,000
(借) 前 受 金 480,000	(貸) 売 上 480,000
(借) 売 上 20,000	(貸) 売 掛 金 20,000

(4) その他の取引

(借) 未 収 入 金 325,000	(貸) 有 価 証 券 342,500
(〃) 有 価 証 券 売 却 損 17,500	
(借) 備 品 800,000	(貸) 未 払 金 800,000
(借) 貸 倒 引 当 金 20,000	(貸) 売 掛 金 20,000

※ 有価証券：¥685,000 (残高試算表有価証券) × 1/2 = ¥342,500

第 4 問

伝票とは、取引の記録(仕訳)を行う紙片であり、仕訳帳の代わりに用いられるものである。また、仕訳日計表とは、1 日分の伝票を集計する表であり(1 週間分の伝票を集計する表は仕訳週計表、1 ヶ月分の伝票を集計する表は仕訳月計表)、合計試算表の一種である。伝票の各勘定の金額を仕訳日計表に集計し、仕訳日計表から総勘定元帳に合計転記を行うことにより、転記の効率化を図ることができる。なお、各伝票の使用方法は下記のとおりである。

1. 入金伝票

入金取引を記入する伝票であり、仕訳上の借方が「現金」となる場合に用いる。入金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の貸方科目となる。したがって、当座預金は入金伝票には記載されない。

2. 出金伝票

出金取引を記入する伝票であり、仕訳上の貸方が「現金」となる場合に用いる。出金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の借方科目となる。したがって、当座預金は出金伝票には記載されない。

3. 振替伝票

入金伝票および出金伝票以外の取引を記入する伝票である。

以下、各伝票の仕訳を示す。

<入金伝票>

(借) 現 金 100,000	(貸) 売 上 100,000
(借) 現 金 60,000	(貸) 当 座 預 金 60,000
(借) 現 金 200,000	(貸) 借 入 金 200,000
(借) 現 金 350,000	(貸) 売 掛 金 350,000

<出金伝票>

(借) 営 業 費 68,000	(貸) 現 金 68,000
(借) 給 料 380,000	(貸) 現 金 380,000
(借) 仕 入 140,000	(貸) 現 金 140,000
(借) 支 払 手 形 200,000	(貸) 現 金 200,000

<振替伝票>

(借) 備 品 1,000,000	(貸) 未 払 金 1,000,000
(借) 当 座 預 金 150,000	(貸) 売 掛 金 150,000

第 5 問

1. 現金実査

簿記上での現金とは、即時支払い手段として機能しうる通貨並びに通貨代用証券のことをいう。そのため、簿記上での現金は硬貨、紙幣および外国通貨に加えて通貨代用証券が含まれることになる。通貨代用証券の例として他人振出しの小切手、配当金領収書等があるが本間における他人振出しの約束手形は含まれないことに注意が必要となる。現金実査を行う場合において、現金実査では 2. の仮払金の精算済みの金額となっているが、現金勘定においては未処理であるため注意が必要となる。また、現金帳簿有高と現金実際有高との差額は雑損勘定または雑益勘定で処理する。

(借) 雑 損	3,000	(貸) 現 金	3,000
---------	-------	---------	-------

※ 現金実際有高：¥5,200 (硬貨) + ¥96,000 (紙幣) + ¥148,000 (他人振出し小切手) = ¥249,200

※ 現金帳簿有高：¥256,200 (整理前試算表現金) - ¥4,000 (2.) = ¥252,200

※ 雑損：¥252,200 - ¥249,200 = ¥3,000

2. 旅費の精算

従業員の出張に際し、旅費の一部を概算額により支払う場合がある。このような場合には、当該概算額を勘定科目および金額が不明であるため、仮払金勘定で処理する。なお、従業員が帰社し、金額が判明した場合には適切な勘定に振り替え、概算額と実際の金額との差額を現金等で受け取る又は支払うことになる。

(借) 旅 費 交 通 費	54,000	(貸) 仮 払 金	50,000
		(〃) 現 金	4,000

◆ 現金 ¥256,200 (整理前残高試算表現金) - ¥3,000 (1.) - ¥4,000 = ¥249,200

3. 貸倒引当金の設定

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	44,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	44,000
-------------------	--------	---------------	--------

※ { ¥800,000 (整理前試算表受取手形) + ¥1,200,000 (整理前試算表売掛金) } × 3% - ¥16,000 (整理前試算表貸倒引当金) = ¥44,000

◆ 貸倒引当金：¥16,000 (整理前残高試算表貸倒引当金) + ¥44,000 = ¥60,000

4. 売上原価の算定

(借) 仕 入	120,000	(貸) 繰 越 商 品	120,000
(借) 繰 越 商 品	96,000	(貸) 仕 入	96,000

◆ 売上原価：¥4,520,000 (整理前残高試算表仕入) + ¥120,000 - ¥96,000 = ¥4,544,000

5. 備品の減価償却

(借) 減 価 償 却 費	200,000	(貸) 備 品 減 価 償 却 累 計 額	200,000
---------------	---------	-----------------------	---------

※ ¥1,600,000 (整理前残高試算表備品) ÷ 8年 (耐用年数) = ¥200,000

◆ 備品減価償却累計額：¥500,000 (整理前残高試算表備品減価償却累計額) + ¥200,000 = ¥700,000

6. 借入利息の見越し

(借) 支 払 利 息	27,000	(貸) 未 払 利 息	27,000
-------------	--------	-------------	--------

※ ¥1,200,000 (整理前残高試算表借入金) × 3% × 9か月 (4月～12月) / 12か月 = ¥27,000

◆ 支払利息：¥9,000 (整理前残高試算表支払利息) + ¥27,000 = ¥36,000

7. 給料の見越し

(借) 給 料	125,000	(貸) 未 払 給 料	125,000
---------	---------	-------------	---------

◆ 給料：¥2,400,000 (整理前残高試算表給料) + ¥125,000 = ¥2,525,000

◆ 未払費用：¥27,000 (未払利息) + ¥125,000 (未払給料) = ¥152,000

8. 地代の繰延べ

前期以前より毎年2月、5月、8月および11月の各初日に向こう3か月分の地代を受け取っている。そのため、整理前残高試算表受取地代勘定には13か月分の金額が計上されていることになる。

(借) 受 取 地 代	8,400	(貸) 前 受 地 代	8,400
-------------	-------	-------------	-------

※ ¥109,200 (整理前残高試算表受取地代) × 1か月 / 13か月 (1月～翌年1月まで) = ¥8,400

◆ 受取地代：¥109,200 (整理前残高試算表受取地代) - ¥8,400 = ¥100,800

3名の税理士試験合格者を輩出!!

熊本県立八代東高等学校 久保 亮太(22歳)

熊本県立八代東高等学校 岩根 佳輝(22歳)

熊本県立熊本商業高等学校 鳩野 祐士(21歳)

開校4年で
この実績!!

**税理士試験
科目合格者**

4科目… 4名

3科目… 6名

2科目… 20名

1科目… 7名

日商 1 級・全経 上級合格者

59名/67名 (88.1%) ※当校卒業生の合格率です。